





本展DM使用イメージ

Gallery PARC[グランマールブル ギャラリー・パルク]では、2018年4月13日(金)から4月29日(日)まで、澤田華による個展「見えないボールの跳ねる音」展を開催いたします。

2014年に京都精華大学芸術学部メディア造形学科版画コースを卒業、2016年に同大学大学院芸術研究科博士前期課程を修了した澤田華(さわだ・はな/1990年・京都生まれ)は、2017年に選抜による「未来の途中の星座 美術・工芸・デザインの新鋭9人展」(京都工業繊維大学 美術工芸資料館・京都)への参加、公募企画展「1floor2017『合目的的不毛論』」(神戸アートビレッジセンター・兵庫)への出品、「群馬青年ビエンナーレ2017」(群馬県立近代美術館・群馬)への入選、「第40回写真新世紀」の優秀賞受賞など、その精力的な活動に呼応し、広く評価・注目を集めています。

澤田は近年制作している《Blow-up》シリーズや、《Gesture of Rally》シリーズにおいて、印刷物やウェブ上の画像投稿サイトにある写真に小さく写り込んだ「正体不明の何か」に眼差しを向け、「これは何か?」という問いを立てることを始点とした解析・推測・検証のプロセスを作品として提示してきました。

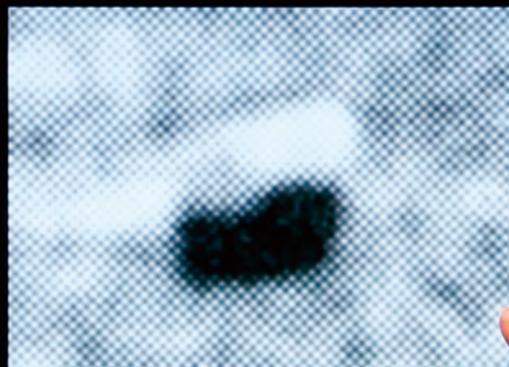
近年制作している「Gesture of Rally (ラリーの身振り)」シリーズは、ノイズとして排除されてしまうような写真の不鮮明な細部を起点とし、分析・検証を繰り返しながらイメージの誤読を重ねることで、「写されたもの」の認識を問う作品である。

澤田華ステートメントより

画面や意味(テーマや意図や文脈など)の上で「無かったこと」として認識の外に置かれる「正体不明の何か」について、澤田はそれを「あった」ものとして扱うとともに、そこに「これは何か?」という問いを立てます。しかし、この問いは「これは〇〇である」にたどり着くことはありません。実際の検証のプロセスにおいても、引き伸ばされた(拡大された)写真は印刷による網点の集合である事実を示し、画像検索の結果はすべて可能性という等価の状態に置かれ、立体物はその構造や質感のほとんどが想像によってのみ成り立っていることを明らかにするだけで、答えはどこまでいっても宙づりにされたままです。

写真はその特性において「過去」に「事物」が「そこに」「あった」ことを示しているといえます。この特性は澤田の作品において「正体不明の何か」が「そこに」「あった」という事実を指し示しているといえます。そして、この写真に写った「正体不明の何か」が「正体不明の何かである」という揺るぎない事実を前に、揺らいでいるのは私たちの認識や想像であることが明らかにされます。澤田の作品は、「事実の写真」として過去に固定されてしまう写真を、目の前の「写真という事実」へと転じさせます。そして、それらに「これは何か?」という現在の問いを向けることで、そこに「未知」を認め、未来に向けて検証・想像するモーメントを発生させます。

《Gesture of Rally》シリーズの最新作によって構成される本展『見えないボールの跳ねる音 Bouncing Sounds of an Invisible Ball』は、写真に小さく写り込んでいる正体不明の未知を巡って繰り返される不毛なラリーであり、答えを宙づりにしたまま、未来に向かって延々と繰り返されます。



ハンドバッグ

画像01

Gesture of Rally #1705

©HanaSawada

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 見えないボールの跳ねる音

Bouncing Sounds of an Invisible Ball

出展作家 澤田 華

Sawada Hana

会 期 2018年4月13日[金] — 4月29日[日] 11:00~19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

本展は「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」のサテライトイベント『KG+』にSPECIAL EXHIBITIONとして参加しています。

料 金 無料

内 容 写真・インスタレーション

「第40回写真新世紀」の優秀賞受賞など、近年に評価・注目を集める澤田華による個展。写真に写り込んだ、普段はノイズとして排除されてしまうような不鮮明な細部を起点とし、分析・検証を繰り返しながらイメージの誤読を重ねることで、「写されたもの」の認識を問う「Gesture of Rally (ラリーの身振り)」シリーズの新作を3フロアに展開する。本展は「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」のサテライトイベント『KG+』にSPECIAL EXHIBITIONとして参加しています。

会 場 Gallery PARC [グランマールブル ギャラリー・パルク] 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F MAP

ア ク セ ス 地下鉄烏丸線「四条」駅・阪急京都線「烏丸」駅22・24番出口より徒歩7分。地下鉄烏丸線・地下鉄東西線「烏丸御池」駅より徒歩7分。室町通・六角通 北東角 室町通側入り口より2Fへ

問 い 合 わ せ Gallery PARC (正木・武本・村田) 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F

TEL= 075-231-0706 FAX= 075-231-0703 MAIL= info@galleryparc.com HP= www.galleryparc.com

近年制作している「Gesture of Rally」シリーズは、ノイズとして排除されてしまうような写真の不鮮明な細部を起点とし、分析・検証を繰り返しながらイメージの誤読を重ねることで、「写されたもの」の認識を問う作品である。

「Gesture of Rally」(ラリーの身振り)という言葉は、ミケランジェロ・アントニオーニ監督の映画『欲望』のラストシーン、パントマイムでテニスの試合をする人々を写真家である主人公が眺める場面から着想を得ている。

この映画の中で主人公が、自分の撮影した写真に死体のようなものが写っていたのを見つけたように、わたしは古本に載っている写真の中に勝手に事件を見出していく。写真に小さく写り込んでいた正体不明の物体を巡って繰り返される不毛なラリーは、答えを宙づりにしたまま、延々と繰り返される。

澤田 華

Sawada Hana

1990 京都生まれ

2014 京都精華大学芸術学部メディア造形学科版画コース

2016 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程 修了

| 展覧会 |

個展

2017 「ラリーの身振り」 KUNST ARZT (京都)

2015 「[C][A][T]」 kara-S (京都)

2014 「Second contact」 KUNST ARZT (京都)

| グループ展 |

2017 「1floor2017『合目的不毛論』」 神戸アートビレッジセンター (兵庫)

— 「場 | BA」 愛知県美術館ギャラリー(愛知)

— 「写真新世紀展2017」東京都写真美術館(東京)

— 「未来の途中の星座・美術・工芸・デザインの新鋭9人展」 京都工業繊維大学美術工芸資料館(京都)

— 「群馬青年ビエンナーレ2017」 群馬県立近代美術館(群馬)

2016 「Reproduction」 成安造形大学 ギャラリーアートサイト(滋賀)

| 受賞歴 |

— 第40回写真新世紀 優秀賞

— 群馬青年ビエンナーレ2017 入選



画像02

Gesture of Rally #1711

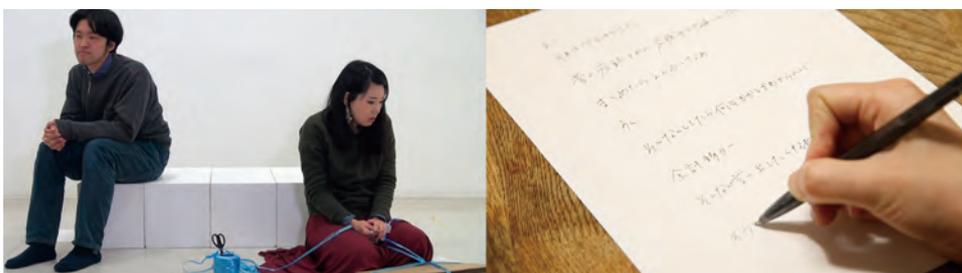
©HanaSawada



画像03

Gesture of Rally #1705

©HanaSawada



画像05

CopingwithNoises

©HanaSawada



画像04

Gesture of Rally #1712

©HanaSawada